

わがまち紹介

水戸市

みらいに躍動する 魁のまち・水戸

井ノ崎 昭
株式会社筑波銀行 水戸営業部長



高橋 靖氏
水戸市長

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県水戸市です。筑波銀行水戸営業部長 井ノ崎 昭が水戸市長 高橋 靖氏にお話を伺いました。

人口減少抑制にチャレンジする 第7次総合計画の3つの柱

水戸市第7次総合計画「みと魁(さきがけ)・Nextプラン」は、人口減少抑制へのチャレンジを主題として策定しました。人口減少は、地域の経済やコミュニティに様々な影響を及ぼすため、その抑制を目指し「子育て」「安心・安全」「経済の発展」という3つの柱を立てています。

まず一丁目一番地に据えたのは、こども・子育て支援、教育の充実です。次に、市民が安心・安全に暮らせるまちにするため、福祉・医療・介護、防災・減災などの施策を推進していくのが2つ目の柱です。自分や家族の命と財産を守ってくれる安心・安全なまちだと肌で感じれば、定住促進にもつながります。3つ目の柱は、経済が発展していくまちづくりです。本市は80%以上が第3次産業という特殊な産業構造となっています。仕事の選択肢が狭いことは人口の流出につながります。そこで、企業立地や多様な働く

場の創出により、まちの求心力を高めていきます。

さて、総合計画の将来都市像は、「こども育む くらし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち・水戸」です。歴史的に、水戸は「天下の魁」と呼ばれてきました。これは、水戸藩の藩校である弘道館が、天下の魁となる優秀な人材を育成するため徳川斉昭公によって創設されたことに由来します。そう考えると、本来の意味で「魁のまち」という言葉が使えるのは本市だけだと言えます。よく使われる“先進都市”を水戸らしい言葉に置き換えて、総合計画に掲げています。



国指定の重要文化財「弘道館」

「みとっこ未来プロジェクト」

将来都市像の実現に向けた重点施策が「みとっこ未来プロジェクト」です。子育て支援にも3つの柱があり、1つ目は子育て世帯の経済的負担の軽減、2つ目は相談支援体制の強化、3つ目は子どもたちの居場所づくりです。このうち最初の2つは親を支援するための政策ですが、政府が掲げている「こどもまんなか社会」を目指すには子ども目線の政策が必要と考え、3つ目の柱としました。

具体的な内容を挙げると、経済的負担の軽減については、小・中学校給食費の無償化、小・中学校新入生応援金の支給、18歳までの子ども医療福祉費助成（所得制限撤廃）、不妊治療費助成などがあります。さらに、保育料の無償化にも着手します。

このような経済的な支援はとても重要ですが、貧困、お子様の障害、介護と子育てのダブルケアなど、様々な困難を抱える子育て世帯に寄り添う施策も欠かせません。そこで2つ目の相談支援体制の強化として、こども家庭支援センターを設置し、妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない支援をしています。相談窓口となる産前産後支援センター「すまいるママみと」では、お母さんの健康状態の確認、お子さんの健康状態や体重・栄養などの確認、育児に関する相談・指導などを行い、必要に応じて適切な医療機関につなぐ対応もしています。ほかにも、民間の介護事業所と連携して訪問型の支援も実施しており、保護者の負担を軽減したり、ヤングケアラーの早期発見・早期支援につなげたりしています。

既存施設を活用し 子どもたちの居場所づくり

3つ目の子どもたちの居場所づくりの背景には、ほとんど居場所が狭まっている現実があります。公園で遊ぼうとしても、ボールは蹴るな、大声を出すなと言われてしまい、非常にかわいそうです。そのため、子どもたちが遊んだり、学んだり、友達をつくったりできる場所と機会を増やしています。

代表的な例として、水戸市民会館に「ラウンジギャラリー」というフリースペースを設けたことが挙げられます。今までは京成百貨店の隅っこの方とか、県庁に隣接した開発公社ビルの空きスペースとかで申し訳なさそうに勉強していたので、堂々と勉強できる場所を提供したいという思いを形にしましたが、期待したとおり、たくさん的高校生が勉強場所として利用しています。

市民会館は新規の施設ですが、基本的には既存の公共施設を活用しています。例えば、市内に34か

所ある全ての市民センターに「こどもスペース」を設けました。子どもたちが自由に来て、おしゃべりをしたり、勉強をしたり、本を読んだり、あるいはゲームを持ってきて遊んだりしてもよい場所で、多くの小・中学生に利用されています。



市民センターにある「こどもスペース」

今後は、こうした取り組みを民間事業者まで広げたいと考えています。ある金融機関の元計算センターだった施設を、シルバー人材センターの拠点として無料でお借りし、固定資産税を減免する協定を結んでいる事例がありますが、民間の空き店舗等で、限られた時間だけ子どもたちに開放していただけるようなスペースがあれば、同様の協定を結ぶことができます。民間企業にとっては遊休資産を社会貢献に活用することになります。民と官の既存施設を利用しながら、子どもたちが自由かつ安全に遊べる場所をつくり、とくに夏場は熱中症予防のクーリングシェルターにもなる場所を提供したいと思っています。

回遊性のあるまちづくりで 中心市街地の活性化を図る

中心市街地活性化について、いわゆるハード的な拠点整備については、弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史的建造物の復元、水戸市民会館の建設、中心市街地からは若干離れますがアダストリアみとアリーナの建設など、おおそ公的な事業は完了しています。また、半官半民の事業となりますが、新たな賑わい交流拠点となる千波公園（黄門像広場周辺地区）におけるパークPFI事業は、来春開業の予定です。



千波公園パークPFI事業のイメージ

民間事業者による拠点整備事業として、水戸駅前三の丸地区や南町3丁目、泉町1丁目で商業店舗やオフィス、多世帯の居住機能を備えた施設の建設が進んでいます。本市はこれらの事業に補助を行っていますが、中心市街地の活性化に加え、まちなか居住の促進や税収面での効果が期待できます。

私たちがこれからやるべきことは、歴史、芸術、スポーツなどの拠点を有機的に繋いでいくことです。つまり、拠点整備というハード事業に見通しが立った今、ソフト事業を展開する段階にきており、点ではなく線へ、さらに面へと連携を広げていけるかどうかがかぎとなります。

特に、水戸市民会館、水戸芸術館、水戸京成百貨店の3つの施設からなるMitoriO(ミトリオ)が連携の核となります。連携事業を進めるには、いかに民間の意欲や参加意識を引き出し、知恵やアイデアを取り込むことができるかが重要です。またそのためには、MitoriOにぎわい推進協議会、水戸市中心市街地活性化協議会、水戸商工会議所、水戸観光コンベンション協会、地元の商店街や商店街連合会などと協力して、「我がまちをどうしたいのか」「そのためにどういう連携が効果的か」「実行するにはどういう行政の支援が必要か」、といった議論を続けていくことが必要です。

例えば、「歴史景観の大手門や弘道館を訪れたら、少し足を延ばして水戸芸術館で現代アートを見ていこう」「タイミングよく水戸市民会館でイベントがあるから覗いてみよう」「テッ・アートプラザに寄っていこう」「せっかく来たんだから何か食べていこう」「茨城ロボットの試合を見て、勝ったから大工町で祝杯をあげよう」など、ついでにもう1件、さらにもう1か所、と促す誘導策は民と官が連携して、場合によっては民が主体となってやっていただく。そのために何が必要なのかを具体的に話し合いながら、施策を具現化していかなければなりません。そうして拠点間の回遊性を高めて人の流れを生み出し、まちとしての付加価値を高めていくことが大きな課題です。



中心市街地の核となるMitoriO(ミトリオ)

多様な働く場の創出に向けて

若い世代に選ばれる都市となるためには、若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出が求められます。そのため私が市長に就任してから、中心市街地型と郊外型の両面で、補助金制度の拡充や土地の規制緩和などにより企業誘致を図ってきました。それなりの成果は出ていますが、県庁所在地でありながら県南地域の爆発的な企業誘致には及ばない状況です。現状、流通センターやデータセンターが立地できるような広大な事業用地はありませんが、本市とその周辺には多数のインターチェンジがあるという強みがあります。そこで、水戸、大洗、水戸南、茨城東、茨城西などのインターチェンジから数キロ圏内は、流通センターや工場などが立地しやすくなるよう、すでに規制緩和の準備に入っています。最大2億5000万円を交付する企業立地促進補助金等もPRしながら、様々な業界と本市商工課の企業誘致・創業支援室が連携して積極的にマッチングをしていきます。

もう1つの施策は、既存企業の活性化です。市内企業が設備投資をして生産ラインを拡大する、あるいは新しい商品を開発して新しい顧客を獲得する、そういうことも雇用の創出に繋がります。そこで今、いばらき県央地域連携中枢都市圏の広域連携事業として、本市では産業活性化コーディネーター3人を中小企業に派遣し、事業者の経営相談に関する支援、設備投資や商品開発を促す助言などを行っています。

このように、企業誘致と既存企業の支援、2つのルートで経済の活性化と若い人たちの働く場の確保に取り組んでいます。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんは地域密着の金融機関として、中小企業を支援し、産業を育成し、地域経済を守っていただく存在だと思っています。特に、本市の98～99%を占める中小企業の活性化は、まちの活力に直結します。金融面から中小企業に寄り添っていただくことは、本市が商工行政を遂行する上でも非常に心強いことですので、引き続き地域に根ざした金融活動をしていただければありがたいと思っています。また、筑波銀行さんに蓄積されたノウハウや人的ネットワークを、行政運営、まちづくり、子育てなど、本市が抱える課題のソリューションにつなげていただくような、銀行でなければできない社会貢献活動にも大いに期待しております。

(取材日:2025年11月13日)

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



常陸牛

茨城県が誇る銘柄牛「常陸牛」は食肉取引規格A、Bの4・5等級に格付けされた最高級ブランドで、脂と赤身のバランスが良く、上品な甘みと旨味が特徴です。すき焼き、しゃぶしゃぶ、ステーキなど、あらゆる用途に応じてご用意しています。



お米 つきたて一等格コシヒカリなど、数多く取り揃えております。毎年リピーターの多い水戸市のお米をぜひご堪能ください。

わがまちの ふるさと納税

水戸市



納豆

水戸といえば納豆！そぼろ納豆や珍しい品種の大豆を使った納豆など、納豆のまち・水戸には、こだわりのある自慢の納豆が数多く揃っています。



干し芋

干し芋は、栄養価の高さと、その美味しさで、近年注目されています。さつまいもの自然な甘さをぎゅっと凝縮しており、食物繊維もたっぷりです！



スタミナラーメン

ご当地グルメ「スタミナラーメン」はスープを張った麺の上に、キャベツレバー、かぼちゃ、人参、ニラの入った甘辛醤油餡をのせた、水戸のソウルフードです。



肉まん

「日本一おいしい肉まんを作ろう」をコンセプトに開発しました。国産豚ひき肉と茨城の銘柄豚である美明豚ひき肉を使用した「美明豚肉まん」、常陸牛を100%使用した「常陸牛すき焼きまん」のセットです。



ミニカー

社会に貢献する仕事への理解や関心を高めるとともに、働くクルマの社会的認知を促進するために、水戸市消防局などの特殊車両をミニチュアモデル化し、製品化しました。



ウイスキー

市内酒造会社が60年ぶりに復活させたクラフトウイスキー。先人の想いを引き継ぎながら、長年の歴史で培った基礎と、新たな知見を大胆に取り入れます。日本ならではのフルーティなウイスキーを目指して熟成させています。



トマトジュース

フルーツトマト専門農場で生産されたトマトの中から、厳選したフルーツトマトを使用した無添加・無塩・無加糖のジュースです。必要最小限の水と肥料で育てていることから、青臭さが圧倒的に少なく、トマトジュースが苦手な方にも人気です。



楽天



ふるさとチョイス



ふるなび



さとふる



Amazonふるさと納税

Mito-city

Mito-city